

まちづくり交付金 フォローアップ報告書
東岸和田駅周辺地区

平成23年4月

大阪府岸和田市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	駅への移動距離、到達時間の短縮	m分	1514 16	1354 8	1354 8	確定 見込み	●	○	あり なし	1354 4.5	H23年3月	○	—	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	限度額立体交差事業完成までの間、阪和線附属街路1号線及び3号線については、一般車両の通行はできないが、緊急車両、歩行者及び軽車両は通行可能であるため、目的地への時間短縮に寄与する。
指標2	幹線道路における混雑度	deg	2.0	1.9	計測不能	確定 見込み		計測不能	あり なし	—	H 年 月	—	—	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	その他の数値指標2を設け、事業目標の達成状況を検証。
指標3	区域内歩道施設の構造上等の不満度の解消	%	57	30	21	確定 見込み	●	○	あり なし	20	H23年3月	○	—	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	阪和線附属街路1号線及び3号線の歩道施設を整備し、通行の快適性の向上に寄与。
指標4	一時避難困難地の空白地帯の解消面積	ha人	49 0	0 4000	0 4000	確定 見込み	●	○	あり なし	0 4000	H21年4月	○	—	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	一時避難地の整備と併せ、情報板や井戸の設置により、地域の安全性向上に寄与。
指標5	地域コミュニティ活動の場の提供	回／年	0	15	15	確定 見込み	●	○	あり なし	6	H22年3月	△		☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	地域イベントの開催回数については、目標値以下ではあるが、防災街区整備区域がまち開きをし、また市民センターが開設されたことにより、今後公園で活動する機会が増加すると予想される。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目 標 値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	一時避難地への到達距離の短縮	m	766		582	確定 見込み			582	H22年4月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	一時避難地となる公園の整備と併せたアクセス道路の整備により、防災機能の向上に寄与。	
その他の数値指標2	幹線道路における混雑度緩和	係数	1.1		0.7	確定 見込み			0.7	H23年3月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	歩行者や軽車両通行が大阪和泉南線から阪和線附属街路1号線及び3号線に変化し、また大阪和泉南線の車両通行量の減少傾向がある。	
その他の数値指標3						確定 見込み				H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	駅へのアクセス機能の持続	限度額立体交差事業完成までの間、住宅地内及び大阪和泉 泉南線の通過交通を抑制するため、附属街路1号線及び3 号線について、歩行者及軽車両の通行を可能にしている。	附属街路1号線及び3号線が歩行者及び軽車両 の通行可能であるため、駅へのアクセスが向上が 図られた。	限度額立体交差事業(JR阪和線高架化事業)の更なる推進を 図り、阪和線附属街路各線の完全開通を図る。
	安全で快適な歩道空間の維持	限度額立体交差事業完成までの間、住宅地内及び大阪和泉 泉南線の通過交通を抑制するため、附属街路1号線及び3 号線について、歩行者及軽車両の通行を可能にしている。	附属街路1号線及び3号線が歩行者及び軽車両 の通行可能であるため、大阪和泉泉南線から当 該道路への通行にシフトした。	限度額立体交差事業(JR阪和線高架化事業)の更なる推進を 図り、阪和線附属街路各線の完全開通を図る。
	地域防災力の向上と持続	上松公園において、防災訓練の実施	一時避難地である上松公園までの避難路確認、 井戸の使用や非常食の炊き出しなどを体験するこ とにより、地域防災力の向上が図られた。	地域住民の防災に対する継続的な意識啓発が必要。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するた めの改善策 ・残された課題・新たな課題への 対応策 ・その他 必要な改善策	主要地方道岸和田港塔原線・市道並松上松線の慢 性的な渋滞の解消	限度額立体交差事業(JR阪和線高架化事業)	事業中	交通渋滞の解消に向けた抜本的対策である限度額立体交差事 業(JR阪和線高架化事業)の更なる推進により、慢性的な渋滞 解消を図る。
	関連事業の進捗併せた交通処理により、通過交通の 抑制	限度額立体交差事業完成までの間、住宅地内の通過交通を 抑制するため、附属街路1号線及び3号線は歩行者・自転車の 通行を誘導。	通勤・通学時の自転車・歩行者の安全な通行空間 確保に寄与している。	限度額立体交差事業(JR阪和線高架化事業)の更なる推進を 図り、阪和線附属街路各線の完全開通を図る。
	鉄道による地域分断を解消し、コミュニティの活性化 を促進	限度額立体交差事業(JR阪和線高架化事業) 下松地区土地区画整理事業	事業中 事業中(H22.4.1:下松42号線通行開始。)	鉄道高架化による市街地の一体化により、一時避難地である上 松公園の誘致圏域の拡大を図る。
	持続的な公園運営の促進	地元住民ボランティアによる公園維持管理を実施。	トイレ施設の清掃や草刈・花植えなどのボランティ ア活動により、地域の憩いの空間として親しまれ ている。	地域住民の主体的な取組の継続を図るため、行政としても機材 の提供などのバックアップを行う。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項